

物価と GDP

AD 曲線, AS 曲線を用いて, 物価水準と GDP の決定を同時に説明することができる.
今学期第一の課題は, この AD 曲線, AS 曲線の性質をよく理解することである.

I. AD-AS 分析 —— 均衡分析

A. 需要側と供給側

1. 需要側 AD 曲線 (Aggregate Demand)

a. 総生産と総需要額 (「計画された」総支出額) の均衡:

$$(1) Y = C + I + (X - M)$$

(2) 均衡の GDP

b. 物価水準と均衡の GDP とのあいだの右下がりの関係

2. 供給側 AS 曲線 (Aggregate Supply)

a. 物価水準と雇用のあいだの右上がりの関係

b. 物価水準と GDP とのあいだの右上がりの関係

B. 物価水準と GDP の決定: AD 曲線と AS 曲線の交点

II. その他の均衡分析 (AD-AS 分析との相違に注意)

A. 個別市場 (例えばコメ, 原油など) の需要供給分析

1. 需要法則と供給法則

a. 需要法則

(1) 価格が低いほど需要量は大きい.

(2) 右下がりの需要曲線

b. 供給法則

(1) 価格が高いほど供給量は大きい.

(2) 右上がりの供給曲線

2. 需要量と供給量の一致: 均衡

a. 価格の決定 (均衡価格)

b. 数量の決定 (均衡需要量, 均衡供給量)

B. GDP 決定の IS-LM 分析

1. IS 曲線と LM 曲線

a. IS 曲線: GDP と総需要額の均衡

(1) 利子率が低いほど均衡の GDP は大きい.

(2) 右下がりの IS 曲線

b. LM 曲線: 貨幣流通量と貨幣需要量の均衡

(1) 貨幣流通量が一定であれば, GDP が大きいほど利子率が高い.

(2) 右上がりの LM 曲線

2. IS-LM の均衡

a. GDP の決定

b. 利子率の決定

参考文献

教科書. 第 9 章, 240–242 ページ.

教科書. 第 6 章. (IS 曲線, LM 曲線の復習.)